

語彙アスペクトからみた現代漢語の 動詞分類について

須藤 秀樹

(東京外国語大学院博士後期課程)

はじめに

本研究では、現代漢語動詞を、動詞の自他の対立を前提としない語彙アスペクトに拠って分類していく。語彙アスペクトに拠る動詞分類を行う場合には、動詞と進行相を表す形態素との共起関係を観察することから動詞を分類することが多い。本稿でも現代漢語の進行相を表す形態素“在”・“着”と動詞との共起関係に基づいて動詞を分類する。

本研究では、「過程 process」と「終結点 terminal point」という意味特徴と“在”・“着”と共起関係という広義の形態とを関連づけ、現代漢語動詞の分類を行った。特に終結点に関して先行研究(馬慶株(1981))と異なる。

ただし、“在”・“着”と共起関係をもつ動詞群の語彙アスペクトを「過程」(process)とした場合に、“着”とのみ共起可能な姿勢動詞(posture verb)のような「様態」を表す動詞類が、現代漢語の動詞分類上の問題になることを指摘した。

1. 現代漢語の動詞分類

本研究で「語彙アスペクト」という術語は、Dowty(1972)の“verb aspect”と同じ意味で用いる。Comrie(1976)では、いろいろな範疇の語に固有のアスペクト性があり、文の中で、それらが相互に作用しあうと考えている。本研究では、文のアスペクト性を検証するには、それに先だつて動詞の語彙アスペクトを明らかにする必要があると考え、研究を進めていく。

語彙アスペクトに拠る動詞分類を行う研究では、動詞と進行相を表す形態素との共起関係の観察から動詞を分類することが多い(金田一(1950), Vendler(1967))。本稿でも現代漢語の進行相を表す形態素“在”・“着”と動詞との共起関係を用いて動詞を分類する。

現代漢語の“在”・“着”は、一見等しく進行を表すのであるが、一つの言語体系の中に同じ機能範疇を表す2つの形態素が存在するとは考えづらい。本研究では、“在”は、動詞の表す事象を前景化する統語機能を持ち、これに対して“着”は動詞の表す事象を背景化する統語機能をもつと考える。“在”・“着”と共起関係をもつ動詞群の語彙アスペクトを「過程」(process)とした場合に、姿勢動詞(posture verb)のような「様態」を表す

動詞類が、現代漢語の動詞分類上の問題になることを指摘し、“在”・“着”と共起可能な動詞を2つの類型に分類する。

Vendler(1967)では、英語の動詞を分類する際に「過程(process)」と「終結点(terminal point)」という2つの属性で動詞を4つに分類している。Vendler(1967)で、英語の動詞を分類する際に、進行相を表す形態“~ing”との共起関係から、英語の動詞を4つに分類し、それぞれに「過程 process」と「終結点 terminal point」という2つの意味特徴を用いて、記述している。

	process	terminal point	例
state	-	-	know, love, desire
achievement	-	+	reach a summit, find, recognize, lose, die
activity	+	-	run, work, write, push a cart
accomplishment	+	+	draw a circle, write a letter, run a mile

表 1: Vendler(1967)の英語動詞の四分類

本研究では、動詞の語彙アスペクトに注目して、図1中に示したような、「過程 process」と「終結点 terminal point」という2つの意味特徴を用いて、現代漢語動詞の分類を行う。

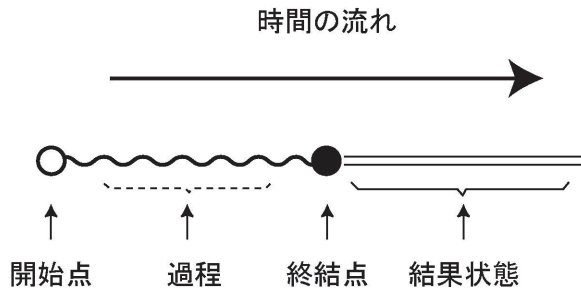


図 1: 動詞の内的時間構造モデル

ここでいう「過程」とは「開始点」から「終結点」間に想定される段階を指すが、「開始点」から「終結点」を含まない概念である。

本稿では、Vendler(1967)で提出された「過程」と「終結点」という属性によって分類を行う。まず、「過程」属性に拠って、現代漢語動詞を2つに分類する。進行相を表す“在”と“着”と動詞との共起関係から過程動詞と非過程動詞とに分類するのである。過程動詞とは、“在”と“着”と共起可能な動詞類であり、動詞の表す動作に「過程」がある。これに対して、非過程動詞は“在”と“着”と共起できない動詞類であり、そ

の動作に「過程」はないのである。

「過程」属性の有無で動詞を分類し、さらに「終結点」属性の有無によって下位分類を行う。非過程動詞類を状態動詞(state)と達成動詞(achievement)とに分類し、過程動詞を動作動詞(activity)と完成動詞(accomplish)とに下位分類する。

須藤(2004a)で主張したように、非過程動詞の中で、達成動詞(achievement)は関係節中に、完了相(perfective)を表す接尾辞“了”を伴って生起可能である。これに対して状態動詞(state)は生起することができない。

須藤(2004b)で主張したように、過程動詞のうちで、完成動詞(accomplish)は、“V+在+場所名詞(句)”という語環境に生起可能であり、これに対して活動動詞(activity)は生起することができない。

本研究で、検証される上記の動詞分類は、現代漢語の文法記述に重要である。例えば、須藤(1999)で主張したように、“V-起来”という動詞と方向補語の組み合わせについては、この構造が「～し始める」という始動アスペクトの意味を担うと解釈できるのは、動詞が活動動詞(activity)の場合であり、また須藤(2004a)で主張したように、現代漢語の関係節中に達成動詞(achievement)は、完了相(perfective)を表す接尾辞“了”を伴って生起可能である。

2. 非過程動詞・過程動詞との対立

現代漢語の研究には膨大な先行研究が存在し、動詞分類に関して、有意義な一般化に成功したものが多く含まれる。現代漢語において進行相を表す形態素は、“在”と“着”である。これまでの“着”の研究では、“V着”が「進行 progressive」と「持続 durative」を表しうることから、それを“着”の属性に起因すると考える立場と動詞の属性に起因すると考える2つの立場がある。前者の立場からの研究には木村(1981)が挙げられる。後者の立場からの研究には方梅(2000)がある。本稿では、仮に“V着”が「進行 progressive」と「持続 durative」を表しうるとしても、それは動詞の属性に起因すると考える立場から研究を進める。

2.1. “着”と動詞類型

木村(1981)では、いわゆる「進行 progressive」の“着”と「持続 durative」の“着”を共時論的には異なる機能範疇に属すると考え、前者を純粋なアスペクト辞とし、後者を結果補語(「小猴子推倒了大象」「小猿が巨象を押し倒した」太字部分)に近似する動詞付加成分とすることを主張している。

方梅(2000)では、“着”の語義を「(動詞の表す事象の)内部が均質な状態である」ことを表すとし、“着”に前置される動詞を、その属性によって分類を行っている。方梅(2000)では、まず動詞を、静態、動態という属性によって2つに分類し、さらに動態属性を持

つ動詞を、持続性、瞬間性という属性によってさらに下位分類している。

方梅(2000)に挙げられている「静態」を表す動詞は、均質な時間構造を持つ。この動詞類型には“着”を後置不可能な動詞と後置可能な動詞とがある。まず後置不可能な動詞として

(1) “是” to be, “属于” to belong to, “作为” regard, “符合” in accordance with.

のような、いかなる動作も表さない動詞を挙げる。

これに対して、「静態」を表す動詞の中でも“着”を後置可能な動詞として、

(2) “有” have/ there is, “存在” exist.

(3) 老李 有 着 说 不 完 的 故事¹。

old Li have DUR speak no finish of story

「李さんには語り尽くせない話がある。」

(4) “爱” love, “考虑” consider, “琢磨” think, “回忆” recall, “注意” pay attention to, “体会” know.

(5) 剩下点儿羊肉, 我 就 琢磨 着 羊肉 怎么 吃。琢磨半天琢

I then think DUR sheep meat how eat

磨不出来。(『北京口语语料』)

「少し羊の肉が残った、私はどうやって羊の肉を食べるか考えていた。しばらく考えたが考えつかなかった。」

が挙げられている。方梅(2000)に挙げられている“有, 存在”に“着”が後置された形は、

¹ CL 量詞

DUR 持続相を表す接尾辞

PERF 完了相を表す接尾辞

LOC 場所名詞句

PROG 進行相を表す時間副詞

SP 文末助詞

T 時間量を表す名詞句

書面語に現れることが多く、口語では用いられないことが呂叔湘(1999), 王学群(2004)²でも指摘されている。本稿でも書面語に現れる特殊な用例と考えておく。

また(6)のような、人間の心理に関わる動詞類は、確かに動きのある動作、すなわち「動態」としては捉えづらく、その意味では確かに「静態」ではある、しかし、その動詞が表す事象に過程が存在しないわけではない。方梅(2000)で提示されているような「静態」と「動態」による分類は意味論的に行われており、語と語の共起関係のような形態に依拠した分類に比べると、客観的な検証が難しい。本稿では、“在”・“着”との共起関係に拠り動詞に過程属性を認めるか否かを決定する。

方梅(2000)には、“着”と共起可能な動詞として、異質な時間構造を持つ「動態」義の動詞が挙がっている。動態属性を持つ動詞を、さらに持続性、瞬間性という属性によってさらに下位分類している。

(6) 動態+持続性

“挂” hang, “贴” paste, “盖” cover, “种” plant, “插” insert.

“坐” sit, “站” stand, “躺” lie, “跪” kneel, “趴” lie on.

“听” hear, “骑” ride, “唱” sing, “跳” jump, “闹” make noise.

(7) 墙上 挂 着 一幅 山水画。

wall above hang DUR one CL landscape painting

「壁には一幅の山水画が掛かっている。」

(8) 動態+瞬時性

“扔” throw, “倒” upset, “停” stop.

(9) 路旁 倒 着 两根 电线杆。

street side upset DUR two CL power pole

「道ばたに2本の電信柱が倒れている。」

これらの動詞に“着”が接尾するということは間違いないのだが、これらの動詞に動態という属性を設定し、同じように“着”を接尾することが可能な“爱”, “考虑”などの人間の心理に関わる動詞類には、「静態」という属性を設定している。また、「持続性」「瞬時性」との対立も明示的に示されていない。後に述べるように過程動詞によって表される事象には、持続する過程が有るので、“着”と共起可能なのである。

² 王学群(2004)では、“有着”を含む341例中のうち、会話文に用いられている例が5つあるが、そのいずれも基本的に、日常会話に用いられるものでないという指摘をしている。

2.2. “在”と動詞類型

郑懿德(1988)では、“在”と共起不可能な動詞として、「状態」を表す動詞、「姿勢」を表す動詞、進行過程・持続過程を持たない動詞、非自主動詞、いかなる動作も表さない動詞の5つが挙げられている。

(10) 「状態」を表す動詞

“饿” hunger, “病” sick, “皱” crinkle, “僵” deadlocked, “醉” drunk, “麻” numb, “聋” deaf, “哑” wordless, “疯” mad, “乏” lack, “塞” clogged up, “通” not block, “醒” be awake.

(11) 「姿勢」を表す動詞

“躺” lie, “坐” sit, “站” stand, “跪” kneel, “靠” recline, “趴” lie on, “倚” rest on.

(12) 進行過程、持続過程を持たない動詞

“死” die, “剩” leave over, “结束” conclude, “开始” start, “撤消” cancel, “放弃” abandon, “遗漏” omit, “准许” allow, “禁止” forbidden.

(13) 非自主動詞

“觉得” feel, “知道” know, “发现” find, “感觉” feel, “听见” hear, “闻见” sniff at, “看见” catch sight of, “碰见” meet, “遇见” meet.

(14) いかなる動作も表さない動詞

“是” to be, “有” have/ there is, “像” resemble, “在” exist.

Teng(1979)では、動詞を action, action-locative, state, process の4種類に分類している。action という意味属性を持つ動詞は“在”直前に置くことができるが、state, process という属性を持つ動詞は“在”を直前に置くことができないことを述べる。郑懿德(1988)との対応関係を見てみると、action 動詞は、「動作」・「行動」を表す動詞(後述)に相当する。action-locative 動詞とは、「姿勢」を表す動詞を指し、state 動詞は「状態」を表す動詞に相当し、process 動詞は進行過程、持続過程を持たない動詞に相当する。

後に見るように、郑懿德(1988)では、“在”と共起可能な動詞として「動作」を表す動詞、「行動」を表す動詞を提示しているのだが、“在”と共起可能な動詞に共通する属性、あるいは“在”と共起不可能な動詞に共通する属性については明示的に説明されておらず、動詞類同士の対立関係についても指摘されていない。

郑懿德(1988)では、“在”と共起可能な動詞として「動作」を表す動詞、「行動」を表す動詞を提示している。たとえば、

(15) 「動作」を表す動詞

“跑” run, “吃” eat, “洗” wash, “说” speak, “看” watch, “学习” study,
“研究” research, “表演” performance

(16) 小孩子 在 看 电视。(Teng(1979)の例文)

child PROG watch TV

「子供がテレビを見ている。」

(17) 「行動」を表す動詞

“关” close, “写” write, “贴” paste, “插” insert

(18) 他 在 写。(郑懿德(1988)の例文)

he PROG write

「彼が書いている。」

また郑懿德(1988)では、「心理状態」を表す動詞は賓語を伴うと“在”と共起することがあることを指摘している。たとえば、

(19) 「心理状態」を表す動詞

“爱” love, “恨” resent, “喜欢” like, “佩服” esteem, “相信” believe.

(20) *他 在 恨。

he PROG resent

(21) 我 知道 他 在 恨 我。(郑懿德(1988)の例文)

I know he PROG resent I

「私は彼が私を恨んでいることを知っている。」

「心理状態」を表す動詞の賓語の有無が、“在”との共起関係に関与的であるという指摘は、動詞の語彙アスペクトの問題ではなく、動詞価(valance)の問題であり、語彙アスペクトの点からは、これらの動詞が表す事象には、「過程」があり、“在”との共起が可能であることから過程動詞に分類することができる。

郑懿德(1988)では「動作」と「行動」を区別する基準を明示的に述べていない。郑懿德(1988)が言うところの「動作」を表す動詞、「心理状態」を表す動詞には、終結点が無

く、Vendler(1967)に示された活動動詞(activity verb)に相当する。これに対して、「行動」を表す動詞には終結点が存在し、Vendler(1967)に示された完成動詞(accomplish verb)に相当する。

3. 「過程」を持つ動詞類型

現代漢語動詞において、「過程 process」という意味特徴を確認可能な文法現象として、動詞と時間量を表す時量賓語とを組み合わせた場合に、動詞の類型によって、時量賓語によって表される時間量の解釈が異なる現象がある。このことに注目した馬庆株(1981)では、持続不可能な動作・行為を表す Va と持続可能な動作を表す Vb という 2 つの動詞のタイプを提示する。馬庆株(1981)では、Vb 動詞を時量賓語の表す意味により、さらに、Vb1(-完成)、Vb21(+完成, -状態)、Vb22(+完成, +状態)というように分類するが、本稿では「過程」属性の有無に拠って、まず動詞を過程動詞(Vb)と非過程動詞(Va)とに分類する。

意味特徴	Va “死”	Vb		
		Vb1 “等”	Vb2	
			Vb21 “看”	Vb22 “摆”
持続	-	+	+	+
完成	+	-	+	+
状態		-	-	+

表 2: 馬庆株(1981)の現代漢語動詞の四分類

馬庆株(1981)が指摘するように、動詞(V)と時量賓語(T)が組み合わせられた場合、Va 動詞は、次の語環境には生起不可能である。これに対して Vb 動詞は、生起可能であり、T は動作が継続する時間量を表す。たとえば、

(22) *父亲 死 三天。

father die T

(23) 这本书 看 三天。

this book read T

「(この本は)三日間読んでいる。」(T = 動作が継続する時間量)

例文(22)の“死”は、持続することが不可能な動作・行為を表す Va 動詞であり、例文(23)の“看”という動詞は持続可能な動作を表す Vb 動詞である。

马庆株(1981)では、Va 動詞を非持続性動詞、Vb 動詞を持続性動詞というように名付けているが、本稿では、前者を非過程動詞、後者を過程動詞として捉えなおす。马庆株(1981)では、Va 動詞として以下のような動詞を挙げる。

(24) “来” come, “去” go, “回” return, “到” arrive, “立” set, “入(入党)” enter, “免(免职)” depose, “结(结婚)” bind, “溜(溜走)” stroll, “中” hit, “批准” approve, “出嫁” marry, “投降” surrender, “提拔” pluck, “并(合并)” merge, “合并” merge, “散” scatter, “出现” appear, “结束” finish, “成立” establish, “懂” understand, “知道” know, “明白” realize, “原谅” forgive, “忌” avoid, “败” be defeated.

“死” die, “伤” injure, “断” break, “熄” extinguish, “丢” lose, “坍” collapse, “塌” collapse, “熟” ripe, “垮” collapse, “没(mò)” be drowned, “完” finish, “了(liǎo)” end, “落” leave behind

須藤(2004a)で主張したように、马庆株(1981)で挙がっている Va 動詞は、状態動詞(state)と達成動詞(achievement)とに分類することができる。非過程動詞の中で、達成動詞(achievement)は関係節中に、完了相(perfective)を表す接尾辞“了”を伴って生起可能である。これに対して状態動詞(state)は生起することができない。

本稿では、马庆株(1981)とは異なり、ある動詞が表す事象の過程の有無は、進行相を表す形態素との共起関係の有無によっても検証されうると考え、“在”と“着”との共起関係を観察していくことにする。

非過程動詞によって表される事象には、持続する過程が無いことから、接尾辞“着”と共起せず、これに対して過程動詞によって表される事象には、持続する過程が有るので、“着”と共起可能なのである。たとえば、

(25) *他 死 着。

he Va DUR

(26) 他 哭 着 说 ... 「彼は泣きながら言った ...」

he Vb DUR speak

動詞と“着”との共起関係を決定するのが「過程」属性であったのと同様に、“在”と動詞との共起も当該動詞の「過程」属性の有無が関与的である。たとえば、

(27) *他 在 死。

he PROG die

(28) 他 在 哭。「彼は泣いている。」

he PROG cry

4. 「終結点」を持つ動詞類型

Vender(1967)で提示された動作の過程と終結点を併せ持つ完成動詞(accomplish verb)という動詞類型は、Tai(1984)では、現代漢語では単独の動詞に存在しないとされている。

英語の完成動詞に相当する動詞はすべて「結果補語」を伴った動詞複合構造(verb compound)で表され、「結果」(result)という語彙アスペクトを持つと主張されている。

Tai(1984)では、英語の典型的な完成動詞である‘to kill’という動作は、動作の対象が死ぬことを含意するのだが、これに対して‘to kill’に相当する現代漢語の“杀”は、動作の対象が死ぬことを含意しないことを指摘する。

(29) *I killed John but he didn't die.

(30) 张三 杀 了 李四 两次, 李四 都 没 死。

ZhangSan kill PERF Lisi two times Lisi all not die

「張三は李四を2回殺そうと試みたが、李四は死ななかった。」

Tai(1984)現代漢語の“杀”に終結点を与えるには、「結果補語」“死”を伴った動詞複合構造(verb compound)にしなければならないことから、現代漢語には完成動詞という範疇が存在しないと主張している。

(31) *张三 杀-死了 李四 两次, 李四 都 没 死。

ZhangSan kill-die PERF Lisi two times Lisi all not die

「*張三は李四を2回殺したが、李四は死ななかった。」

これに対して马庆株(1981)では、動作の内部における終結点の有無を、動詞が以下のような語環境に生起可能か否かによって判断している。この文法現象によって、過程動詞(Vb)を終結点を持たないVb1動詞と終結点を持つVb2動詞とにさらに分類する。

(32) 是 T 前 V 完的。 「T 前に V(し)終わったのだ」

(33) *是 三天 前 等 完 的。 「三日前に待ち終わったのだ」

be T before Vb1 finish NOM

(34) 是 三天 前 看 完 的。 「三日前に読み終わったのだ」

be T before Vb2 finish NOM

しかしながら、動作の「終結点」が内在的であるか、外在的であるかは、上で挙げた

(32)のテスト文に生起するか否かで単純に決定できるものではない。中川(1979)では、馬庆株(1981)の基準で、終結点有りとなる「说・看」について以下のように述べる。

「说・看・走」のような動詞が意味するところの行為には、厳密な意味での『終了』は存在しない、あるいは行為の持続と中断のみであり、いつでも再開可能なのである。

...

中国語において「说」のような動詞の意味するところの動作は、それが前段の動作として、後段の動作に向けて一応終結されるか、「-好、-完」のような結果補語がつくか、あるいは目的語になる関与者つまり対象の側からの量的限定（数量限定語）を伴った目的語や動量詞を共起させる。

上の中川(1979)の主張では、現代漢語の述語動詞句が表す、動作の終結には、以下の2つの種類があると述べているのである。

- (a.) 前段の動作として、後段の動作に向けて終結される。
- (b.) 結果補語がつくか、あるいは目的語になる関与者つまり対象の側からの量的限定（数量限定語）を伴った目的語や動量詞を共起させる

すなわち、現代漢語においては、終結点は、(a)のように意味論的に含意される場合と、(b)のように統語的手段によって表される場合とがあるのである。

上で見た Tai(1984)の、「現代漢語には完成動詞(accomplish verb)が存在しない」という主張は、(a)のような意味論的に含意される場合を看過しているように思われる。たとえば、日本語の「着る」も二局面動詞であり、「着ている」は「着つつある」動作の段階とその動作終了後の結果状態の意味での「(服を)着ている」という結果段階の二つを表しうる。この場合、動作の終結点は、これら2つの局面の切り替わる時点にあると、意味論的に考えられる。

荒川(1985)、三宅(1994)に指摘されるように 現代漢語の動詞には、動作の過程の局面と動作完了後の結果状態の持続の局面とを一つの動詞の語彙の意味として持つ動詞がある。現代漢語の accomplish verb とは、そうした二局面動詞である。たとえば、荒川(1985)では、“穿”について、以下の二つの解釈が可能な二局面動詞であることを指摘する。

- (35) 那件 和服 她 穿 了 半天。
that CL Japanese cloth she wear PERF long time

「その和服を着るのに長い時間かかった。」(動作の過程の局面を表す解釈)

「その和服を長い時間着ていた。」(動作に起因する結果状態が継続する局面を表す解釈)

現代漢語の accomplish verb は、“安”「取り付ける」、「安排」“(人員などを)配置する”、“摆”「並べる」、「搁」「置く」、「放」「置く」、「挂」「掛ける」のように、動作のはたらきかけを受けてある物が他のものに付着することを表す動詞を指す。

これらの動詞に“在”が用いられた場合には、動作の進行を表す。たとえば、

- (36) 他们 (是) 在 挂 宪政 的 羊头,
they (are) PROG hang constitutional government of sheep meat
卖 一党专政 的 狗肉。
sell one-party government of dog meat

「かれらは憲政という羊頭をかかえて、一党独裁の狗肉を売っているのである。」

これに対して、“着”が用いられた場合には、動作の進行を表す場合と、動作終了後の結果状態の持続を表す場合とがある。

方梅(2000)で挙がっている動態+持続性(たとえば“倒”「倒す、倒れる」)、動態+瞬間性(たとえば“挂”「掛ける」)という2つの種類の動詞も完成動詞であり、これらの動詞に“着”が用いられた場合には、動作の進行を表す場合と、動作終了後の結果状態の持続を表す場合とがある。

- (37) 他 一边 给 大家 往 玻璃杯里 倒 着 啤酒,
he one side give everyone toward glass cup inside upset DUR beer

一边夸耀着自己刚才的“战功”…。(動作の進行)

「彼はみんなのコップにビールを傾けながら、手柄話を鼻高々としゃべり…。」

- (38) 路旁 倒 着 两根 电线杆。(結果状態の持続)

street side upset DUR two CL power pole

「道ばたに2本の電信柱が倒れている。」

- (39) 正 挂 着 画, 他 来 了。(動作の進行)(马庆株(1981)の例文)

just hang DUR painting he come SP/PERF

「ちょうど絵を掛けていると、彼が来た。」

- (40) 墙上 挂 着 一幅 山水画。(結果状態の持続)(马庆株(1981)の例文)

wall above hang DUR one CL landscape painting

「壁には一幅の山水画が掛かっている。」

これまでの議論をまとめて、“在”と“着”と共起する動詞の分布を見てみると、表3のようになる。この表から郑懿德(1988)で挙げられている“在”と共起可能な動詞の分布と方梅(2000)で挙げられている“着”と共起可能な動詞の分布とを比較してみると、“在”と共起可能な動詞は“着”とも、ほぼ共起可能なことが分かる。ただし、「姿勢」を表す動詞は、“着”とは共起可能だが、“在”とは共起不可能である。

本発表	過程動詞			
郑懿德(1988)	「動作」	「心理状態」	「行動」	「姿勢」
方梅(2000)	動態+持続性	静態	動態+持続性・動態+瞬間性	動態+持続性
“在”との共起	○	○	○	×
“着”との共起	○	○	○	○

非過程動詞			
「状態」	いかなる動作をも表さない動詞	非自主動詞	過程を持たない動詞
静態			
×	×	×	×
×	×	×	×

表3: “在”と“着”と共起する動詞の分布

表3の中で、郑懿德(1988)で挙げられている「動作」を表す動詞(“看” watch, “听” hear, “吃” eat)は、過程動詞であり、終結点を持たない活動動詞に分類される。郑懿德(1988)で挙げられている「心理」を表す動詞(“爱” love, “恨” resent, “喜欢” like, “佩服” esteem, “相信”)は、方梅(2000)で挙げられている「静態」を表す動詞に含まれるが、上述のように、これらの動詞も過程動詞であり、終結点を持たない活動動詞である。

郑懿德(1988)で挙げられている「行動」を表す動詞、方梅(2000)で挙げられている「動態+持続性」動詞、「動態+瞬間性」動詞は、“穿” wear, “脱” take off, “挂” hang のような動詞であり、これらは過程動詞であり、終結点を持つ完成動詞である。

郑懿德(1988)で挙げられている「状態」を表す動詞, “知道” know, “懂” understand, “明白” realize, のような非自主動詞は非過程動詞であり、終結点を持たない状態動詞である。郑懿德(1988)で挙げられている「過程を持たない」動詞(“死” die, “丢” lose, “断” break)は、非過程動詞であり、終結点を持つ達成動詞である。

	process	terminal point	例
状態(state)	-	-	知道「知る」、懂「分かる」、明白「理解する」
達成(achievement)	-	+	死「死ぬ」、丢「失う」、断「切れる」
活動(activity)	+	-	看「見る」、听「聞く」、吃「食べる」
完成(accomplishment)	+	+	穿「着る」、脱「脱ぐ」、挂「掛ける」

表 4: 現代漢語動詞の四分類

5. 姿勢動詞について

郑懿德(1988)で挙がっている“在”と共起可能な動詞の分布と方梅(2000)で挙がっている“着”と共起可能な動詞の分布とを比較してみると、“在”と共起可能な動詞は“着”とも、ほぼ一致していることが分かる。ただし、郑懿德(1988)で挙がっている「姿勢」を表す動詞(“躺” lie, “坐” sit, “站” stand, “跪” kneel, “靠” recline, “趴” lie on, “倚” rest on)は、“着”とは共起可能だが、“在”とは共起不可能である。

これら姿勢動詞は“着”と共起可能であることから、過程動詞であり、終結点を持たない活動動詞である³。これらの動詞が、“在”とは共起せず、“着”とのみ共起するのは、動詞の語彙アスペクトの違いと言うよりも、“在”と“着”との機能の違い、つまり“着”が標示する従属性によると考えられる。この従属性という概念は、Chu(1987)では統語機能(syntactic function)として説明している⁴。

現代漢語で“着”が接尾した動詞一つだけの文は「文が終止せず、何か足りない」感じがする文である。たとえば、刘一之(1999)では、以下のような文法性の判断の違いがあるとする。

(41) *我们说 着 话。 「我々が話している。」

we speak DUR words

³ 荒川(1985)では、姿勢動詞を二局面動詞(完成動詞)とは異なる動詞類としている。姿勢動詞+“着”という組み合わせが表す意味について、以下のように述べる。

日本語の立つ、スワル…の動詞は、変化や過程に重点のある動詞であるが、中国語の“站”類は、変化や過程よりも状態(“站”なら立ッテイルという状態)を表すのがその基本的な意味である。このことはつまり、“站”等々は、立ッテイルという意味の動詞と“着”との結合であって、立ッタ結果の状態の持続と考えなくてもよいということである。

⁴ Chu(1987)では「The -zhe therefore only serves the syntactic function of subordinating the V-zhe structure to the main predicate.」と述べている。

(42) *下 着 雨。「雨が降っている。」

down DUR rain

次のように後ろに文があれば、適格な文となる。

(43) 我们 说 着 话, 天 就 黑 下 来 了。

we speak DUR words sky then black down come SP

「我々が話していると、すぐに日が暮れてきた。」

(44) 天 这么 黑, 下 着 雨, 我 看 就 别 去 了。

sky this black down DUR rain I see then do not go SP

「空がこんなに暗く、雨が降っている、行かないことにした。」

こうした語感は、“着”の従属性(subordination)に起因する。

讃井(2000)では、“在”と“着”との違いについて、“在”は「動作主および動作・状態のタイプの存在を**前景化**」し、これに対して“着”は「別に主張したい事柄があって、その事柄の**背景**にある事実をありのままに記述する」表現である、と主張している。こうした“着”の背景化という機能は“着”の従属性に起因するのである。たとえば、

(45) 他 坐 着 看 电视。

he sit DUR watch TV

「彼は座りながらテレビを見ていた。」

のように「テレビを見る」という動作の背景で「座る」ことが行われていることを表している。すなわち、現代漢語の“站”，‘坐’のような姿勢動詞が表す事象は，“在”を用いて、動作をいわば正面から捉えて表現することはふさわしくなく，“着”を用いて別の動作の背景に置かれることがふさわしい動作であると言える。

参考文献

CHEN ChuangYu 1978: Aspectual Features of the Verb and the Relative Positions of the Locatives, *Journal of Chinese Linguistics* 6.

CHU Chauncey C 1987: The semantics, syntax and pragmatics of the verbal suffix zhe, *Journal of the Chinese Language Teachers Association* 22.

COMRIE, B. 1976: *Aspect*, Cambridge University Press.

HOPPER Paul J 1979: Aspect and Foregrounding in Discourse, Givon (eds.), *Syntax and Semantics* Vol.12: New York Academic Press.

- DOWTY, D.R. 1972: *Studies in the logic of verb aspect and time reference in English*, Studies in Linguistics 1. Dept. of Linguistics, University of Texas at Austin.
- TAI, James H.-Y. 1984: Verbs and Times in Chinese: Vendler's four categories. David Testen, Veena Mishra, and Joseph Drogo (eds.), *Papers from the Parasession on Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.
- TENG Shou-hsin 1979: 「Progressive Aspect in Chinese」, 『アジア・アフリカ語の計数研究』第 11 号.
- VENDLER, Z., 1967: Verbs and Times, *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press, Ithaca, New York.
- 荒川清秀 1985: 「“着”と動詞の類」, 『中国語』No.306.
- 戴耀晶 1991: 「现代汉语持续体“着”的语法分析」, 邵敬敏主編『九十年代的语法思考』, 北京语言学院出版社.
- 方梅 2000: 「从 V “着”看汉语不完全体的功能特征」, 中国语文杂志社編『语法研究和探索(九)』, 商务印书馆.
- 伊原大策 1982: 「進行を表す「在」について」, 『中国語学』229 号.
- 木村英樹 1981: 「「付着」の“着 zhe”と「消失」の“了 le”」, 『中国語』No 258.
- 木村英樹 1997: 「“变化”和“动作”」, 余霽芹他編『橋本萬太郎紀念中国語学論集』, 内山書店.
- 木村英樹 1982: 「中国語」, 講座日本語学 11 『外国語との対照』, 明治書院.
- 河野六郎編 1996: 『言語学大辞典 第 6 卷 術語編』, 三省堂.
- 梁紅 1999: 「中国語の結果相(resultative)とパーフェクト(perfect) ——「互換可能」な“V 着”と“V 了”を中心に——」, 『中国語学』246 号.
- 李临定 1985: 「动词的动态功能和静态功能」, 『汉语学习』第 1 期.
- 刘宁生 1985: 「论“着”及其相关的两个动态范畴」, 『语言研究』第 2 期.
- 刘一之 1999: 「北京口语中的“着”」, 北京大学中文系《语言学论丛》编委会編『语言学论丛 (第二十二辑)』, 商务印书馆.
- 刘月华等 2001: 『实用现代汉语语法 (增订本)』, 商务印书馆.
- 盧濤 1997: 「「在大阪住」と「住在大阪」」, 大河内康憲教授退官記念論文集刊行会『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』, 東方書店.
- 吕叔湘主編 1999: 『现代汉语八百词 (增订本)』, 商务印书馆.
- 马庆株 1981: 「时量宾语和动词的类」, 『中国语文』第 2 期.
- 松本克己 1991: 「主語について」, 『言語研究』100 号.
- 峰岸真琴 2002: 「形態類型論の形式モデル化」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』64 号.
- 三宅登之 1994: 「关于“着”表示的语法意义」, 『県立新潟女子短期大学研究紀要』No. 31.

- 三宅登之 2004: 「いわゆる動態義の“V着”の使用環境について」, 日中対照言語学会 第12回大会 12月23日 東洋大学 発表レジュメ.
- 中川正之 1979: 「「着 -zhe」と「了 -le」」, 『アジア研究』創刊号.
- 太田辰夫 1947: 「北京語における“進行”と“持続”」, 『中国語雑誌』2巻2号・3号.
- 佐々木勲人 1997: 「中国語における使役と受動の曖昧性」, 『ヴォイスに関する比較言語学的研究』, 三修社.
- 讃井唯允 2000: 「“在等”“等着”“在等着” —— “在”と“着”の文法的意味と語用論」, 『人文学報』第311号.
- 沢田啓二 1983: 「“在”小考 ---共起する成分との関連から ---」, 『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念中国語学・文学論集』, 東方書店.
- 須藤秀樹 1999: 「日中アスペクト論序説--中国語“～起来”の表わす意味について--」, 麗澤大学中国研究会『中国研究』第7号.
- 須藤秀樹 2004a: 「現代漢語の関係節“V的N”中に“了”が共起する条件について ---動詞の語彙的アスペクトの観点から---」, 『大学院博士後期課程論叢 言語・地域文化研究』No.10, 東京外国語大学大学院.
- 須藤秀樹 2004b: 「現代北京語の動詞分類と“把”と“在”の共起関係について」 敦賀陽一郎, 黒澤直俊, 浦田和幸 (編) 『言語情報学研究報告 3』, 東京外国語大学地域文化研究科.
- 鈴木直治 1956: 「中国語における位置の指示と強調のムードとの関係について」, 『中国語学』, 第57号.
- 王还 1957: 「说“在”」, 『中国语文』2月号.
- 王还 1980: 「再说“在”」, 『语言教学与研究』第3期.
- 王学群 2004: 「“有着”再考」, 大東文化大学語学教育研究所成立20周年記念 現代中国語文法研究発表大会 7月3日 発表レジュメ.
- 依藤醇 1992: 「連動式における“着 zhe”」, 『東京外国語大学論集』44.
- 郑懿德 1988: 「时间副词“在”的使用条件」, 中国语文杂志社编『语法研究和探索(四)』, 北京大学出版社.
- 朱継征 1998: 「中国語の進行相について “在”と“～着”の文法的使い分けと意味的分析を中心に」, 『中国語学』第245号.

Lexical Aspect of Verbs in Mandarin Chinese

Hideki SUDO

(Ph D Candidate, Tokyo University of Foreign Studies)

This research is based on a lexical aspect which isn't based on a contrast with the intransitive verb and the transitive verb, and is intended to classify a Mandarin Chinese verb.

According to the preceding research, a verb is often classified based on observing association relations between the verb and the morpheme which express the progress aspect.

This paper is also based on the association relations between the verb and the morpheme "在", "着" which show the progress aspect in Mandarin Chinese, and according to this relationship, this research posits that there are four subcategories of verb in Mandarin Chinese.

Throughout this paper the classification of the Chinese verb is based on the meaning characteristics of the process and terminal point and "在", "着" and the form in the broad sense of the one related to the association. Traditionally, we classify Chinese verbs in accordance with the association relations in the process verb and the non-process verb. This paper attempted a different classification scheme from the preceding research about the terminal point, and pointed out that the verb showed "posture", and can not occur with "在" but can occur with "着". It is difficult to classify this type of verb using a traditional classification approach.

Vendler (1967) did English verb classification. He classified a verb by using two attributes of the process and terminal point in four stages.

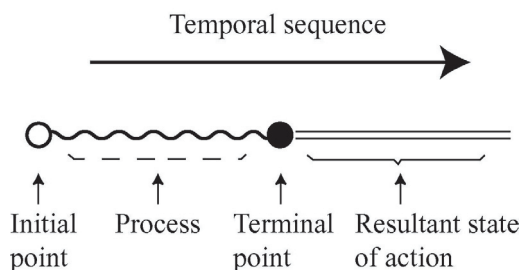


Figure 1: Inner time structure model of verbs

This research classifies Mandarin Chinese verb by using two meaning characteristics of the process and terminal point, which accord with Vendler (1967).

	process	terminal point	例
state	-	-	知道 “know”, 懂 “understand”, 明白 “realize”
achievement	-	+	死 “die”, 丢 “lose”, 断 “break”
activity	+	-	看 “watch”, 听 “hear”, 吃 “eat”
accomplishment	+	+	穿 “wear”, 脱 “take off”, 挂 “hang”

Table 2: Four subcategories of Verb in Mandarin Chinese

First, whether the verb can occur with "在" and "着" or not, Mandarin Chinese verbs are classified into two types: process verbs and non-process verbs.

Process verbs have "a process" in the movement which the verb imply. On the other hand, non-process verbs can not occur with "在" and "着". There is not "a process" in the movement which a verb implies.

Second, whether the process verbs have a terminal point or doesn't have it, A process verb is classified into the activity verb and the accomplish verb. The former doesn't have terminal point, the latter have terminal point. In the same way, whether the non-process verbs have a terminal point or doesn't have it, A non-process verb is classified into the state verb and the achievement verb. The former doesn't have terminal point, the latter have terminal point. Thus, there can be a four subcategories of verb. A non-process verb is classified into the state verb and the achievement verb. A process verb is classified into the activity verb and the accomplish verb. For example, "死" is the verb which can not occur with "在" and "着", thus, the movement which this verb shows can't progress, consequently, the verb is classified into the non-process verb. On the other hand, "看" is the verb which can occur with "在" and "着", the movement which this verb shows can progress, for this reason, the verb is classified into process verb. Because, there are two ways of expressing the terminal point, it is expressed semantically and grammatically, so, it is difficult to say whether there is the terminal point in the movement which a verb shows. It insists that the terminal point of the accomplish verb is expressed semantically in this paper. This type of verb has two stages, they are a stage of a process and a stage of a resultant state of action. The terminal point exists between the stage of a process and the stage of a resultant state of action.

This paper	process verb			
ZhengYiDe(1988)	action	state of mind	Behavior	posture
FangMei(2000)	dynamic+durative	Static	dynamic+durative/ instantaneous	dynamic+durative
co-occur with “zai 在”	○	○	○	×
co-occur with “zhe 着”	○	○	○	○

non-process verb			
state	like copura	non-volition	non-process
Static			
×	×	×	×
×	×	×	×

Table 3: Distribution of the verb according to cooccurrence with “zhe 着” and “zai 在”

It is worthy of note that a posture verb is classified into the process verb. The posture verb can occur with "着", but can not occur with "在". The difference of distribution of with "着" and "在" Because not the difference of the verbal lexical aspect, but the syntactic function of "在" and "着" is different, so, the co-occurrence with these words and the posture verb are different.